

# 救命救急センター 臨床研修到達目標（必修）

## 1. 特徴

年間約 1500 件の 3 次救急症例。

充実した専従の救急科医の配置と個々の高い専門性とモチベーションで診療にのぞむ。

“断らない 3 次救急” を実践し、都内屈指の応需率を維持。

## 2. ねらい

- 1) 救急患者の基本的な診かた、救急医学の考え方を習得する。
- 2) 救急蘇生法（BLS、ALS）の知識と技術を習得し、指導できるようにする。
- 3) ショック患者の診断治療、外傷初期診療、脳卒中診療の基本を習得する。

## 3. 一般目標

- 1) 初期診療結果を統合して重症度、緊急度を把握できる。
- 2) 重症度、緊急度にあわせた処置を選択できる。
- 3) 心肺蘇生（気管挿管、人工呼吸、胸骨圧迫、除細動、ペースング等）ができる。
- 4) 頻度の高い救急疾患の初期診療を行ない、必要に応じた専門医へ適切にコンサルテーションできる。
- 5) 実習前の準備 血液ガス分析、一次救命処置

## 4. 研修方略

救急医療はチーム医療であるため、各指導医は全研修医を対象に指導し、特にマンツーマン体制をとらない。専門医、または指導医資格を持つスタッフが診療チームのリーダーとして、専門性の高い診療に携わりながら研修医を実地指導する。

当科では一、二次救急から三次救急までを対象とするため、より幅広い疾患から救急医療を学ぶことができる。専門分野に偏らない診療を大学病院で研修できる数少ない部署で、他科へのコンサルテーション能力やコミュニケーション能力など、医師としての素養を磨くことができる。また、三次救急では高度医療機関として求められる初期診療や集中治療を研修することができる。

内因性疾患から外因性疾患まで幅広い症例を扱い、とくに中毒や外傷、熱傷などの外因性疾患は当科の特徴である。多くの重症疾患を経験することは、将来の方向性を決める上でも貴重である。

ほぼ毎日、ベッドサイドでは座学とは異なる勉強会が行われている。学会の研究会、学会に積極的に参加の機会を設け偏りのない知見を得る。また、メーリングリストを用いて各症例に適した最新海外文献を紹介するなど現場に即した最新の学術的知識を身につける。

## 5. 週間スケジュール

科	月	火	水	木	金	土
救命救急センター	8:00~9:30 臨床カフアルス 9:30~ 病棟回診	8:30~9:30 臨床カフアルス 9:30~ 病棟回診	8:30~9:30 臨床カフアルス 9:30~ 病棟回診	8:30~9:30 臨床カフアルス 9:30~ 病棟回診	8:30~9:30 臨床カフアルス 9:30~ 病棟回診	8:00~勉強会 8:30~9:30 臨床カフアルス 9:30~ 病棟回診
	16:30~ 申し送り	16:30~ 申し送り	16:30~ 申し送り	16:30~ 申し送り	16:30~ 申し送り	

午前 8:30~9:30 適宜（症例検討会／抄読会）

午後 4:30~ 適宜（勉強会／シミュレーション）

## 6. 研修評価

- 自己評価：PG-EPOC を用いて自己評価を行う  
（症候、疾病・病態の経験については PG-EPOC にて確認を行う）
- 指導医による評価：PG-EPOC を用いて研修医を評価する  
（症候、疾病・病態の経験については PG-EPOC にて確認を行う）
- 研修医による研修体制評価：PG-EPOC を用いて診療科全体（指導内容、研修環境）を評価する

## 7. 指導体制

指導責任者 弦切 純也

指導医 佐野 秀史、金村 剛宗、奈倉 武郎、大竹 成明、沼田 儒志

# 救命救急センター 臨床研修到達目標（選択）

## 1. 特徴

年間約 1500 件の 3 次救急症例。

充実した専従の救急科医の配置と個々の高い専門性とモチベーションで診療にのぞむ。

“断らない 3 次救急” を実践し、都内屈指の応需率を維持。

## 2. ねらい

- 1) 救急患者の基本的な診かた、救急医学の考え方を実践する。
- 2) 救急蘇生法（BLS、ALS）の知識と技術を習得し、指導できるようにする。
- 3) ショック患者の診断治療、外傷初期診療、脳卒中診療の基本を実践する。

## 3. 一般目標

- 1) 初期診療結果を統合して重症度、緊急度を評価できる。
- 2) 重症度、緊急度にあわせた処置を選択できる。
- 3) リーダーとして心肺蘇生（気管挿管、人工呼吸、胸骨圧迫、除細動、ペーシング等）ができる。
- 4) 頻度の高い救急疾患の初期診療を行ない、必要に応じた専門医へ適切にコンサルテーションできる。

## 4. 研修方略

救急医療はチーム医療であるため、各指導医は全研修医を対象に指導し、特にマンツーマン体制をとらない。専門医、または指導医資格を持つスタッフが診療チームのリーダーとして、専門性の高い診療に携わりながら研修医を実地指導する。

当科では一、二次救急から三次救急までを対象とするため、より幅広い疾患から救急医療を学ぶことができる。専門分野に偏らない診療を大学病院で研修できる数少ない部署で、他科へのコンサルテーション能力やコミュニケーション能力など、医師としての素養を磨くことができる。また、三次救急では高度医療機関として求められる初期診療や集中治療を研修することができる。

内因性疾患から外因性疾患まで幅広い症例を扱い、とくに中毒や外傷、熱傷などの外因性疾患は当科の特徴である。多くの重症疾患を経験することは、将来の方向性を決める上でも貴重である。

ほぼ毎日、ベッドサイドでは座学とは異なる勉強会が行われている。学会の研究会、学会に積極的に参加の機会を設け偏りのない知見を得る。また、メーリングリストを用いて各症例に適した最新海外文献を紹介するなど現場に即した最新の学術的知識を身につける。

※週間スケジュール・研修評価・指導体制は必修と同様